

## 永住意思決定についてのコメント

平成14年10月に帰国をし、昨年家族との再会を果たしました私どもは、いままで国民の皆様の温かいご声援とご支援と、関係機関の厚いご配慮とご協力のもとで日本社会に溶け込み、自立するための準備を進めてまいりました。そして拉致被害者本人たちは全員就業をはたし、その家族たちも就学や就職することが決まるなど今後の生活の見通しがつくようになりました。

このように将来の大筋の道が定まりつつあるなか、私どもはこの度いままでも家族のなかで固めてまいりました日本への永住意思を正式に国に文書でお伝えいたしました。私どもがここまでに至ることができましたのも、ひとえに国民の皆様のおかげです。心から深く御礼申し上げます。

これからは完全な自立のための道をさらに加速していくとともに、大変残念ながらいまだに解決を見ていない拉致問題の進展のために、私どもとしてできる限りのことをやってまいりたいと思っております。

今後も国民の皆様様の温かいご声援、ご協力をお願い申し上げます。

平成17年3月18日

地村 保志、富貴恵、恵未、保彦、清志

蓮池 薫、祐木子、重代、克也

曾我 ひとみ、チャールズ・ロバート・ジェンキンス、美花、プリンダ